



## 旭自治会 だより

令和7年2月3日 第85号 発行 旭自治会

TEL: 0771-22-5533

HPアドレス: [kameoka-asahi.com](http://kameoka-asahi.com) (QRコード)



### 大寒を過ぎると立春

2月は立春の候、春の文字は使えどもまだまだ真冬、日本の四季の移り変わりを示す、二十四節気は上手く出来ていて、1/20~2/2の節分までは「大寒」2/3が「立春」、2/4頃「雨水」、2/19頃「啓蟄」、3月はじめは「春分」、雪が解け、植物や動物が動き出す季節が間もなく訪れますが、まだまだ厳しい冬の毎日、旭町の皆様方には、日々如何お過ごしでしょうか。

今年はいままで積雪が少なく、町内の移動には支障が少なく有難いです。できれば大雪もなく春を迎えたいものです。自治会で用意した凍結防止剤も、今は活躍の場がなく積まれたままです。この先必要となるのかどうなのか、倉庫に保管するのか、微妙と言っておきます。

ところで、節分「鬼は外、福は内」恵方巻は2月3日と思いつかぶのですが、今年は2月2日です。4年前に2月2日になったときは百数年ぶりだったので少し話題性もあったのですが、来年からしばらく3日と2日が数年ごとに変わるようです。今年は立春が2月3日となったためです。この決定は何でも地球の公転により、こうした暦は国立天文台が毎年「官報」で発表しているようです。暦は歴史的な日本の文化のようなものと思われませんが、この決まりごとが天文学で決められていることに、壮大な地球規模の現象に関わっていることと思うと、何か感動を覚えます。

一年が365日であったり366日であったり、毎年の暦が変わるごとく、正に地球は動いているということですか。

さて先日、川東4町の自治会で組織する「丹波ニュー風土記の里整備構想促進協議会」が主催し、昨年に引き続いて実施してきた「まほろば・亀岡かわひがしフォトコンテスト」の審査会がありました。今年も多く作品が寄せられ、旭町からも応募をいただきありがとうございました。2月にネット上で入選作が発表され、亀岡市役所1階ロビーで展示されますので、是非ご覧いただきたいと思います。

また、この組織が主催する「まほろば・亀岡かわひがしウォークラリー」が3月1日(土)に河原林町で実施されます。多くの旭町の皆様にご参加いただきたく、お待ちしております。春を迎える川東の自然と文化資産に歩いて触れていただきたいと思います。

寒いとき、屋内に居ることが多い季節であり、またコロナ、インフルエンザと風邪の流行もまだまだ減少しておらない今日ではありますが、啓蟄のごとく活動が始まる季節、注意しながら、体を動かす時です。

皆様の益々のご健勝をお祈り申し上げます。

旭町自治会長 吉川 肇



## 亀岡市消防団旭分団 出初式・亀岡市消防 出初式 開催

令和7年1月12日（日）毎年グラウンドで行われる出初式。今年は雪の影響もあり旭コミュニティセンター講堂で、旭町消防団を筆頭に、旭町自治会長などの参加で開催されました。旭町消防団長より消防団員出席者等の報告や自治会長より、感謝の気持ちが述べられました。分団長より消防団としての責任などを力強く述べられました。その後亀岡市出初式が午前9時から行われました。令和6年度消防団員表彰及び京都府知事表彰では下記の方々が表彰されました。

- 亀岡市長表彰
  - 精勤賞 副分団長 川勝 知己 様
- 亀岡市消防団長表彰
  - 旭 班長 川勝 達也 様
  - 旭 団員 岡本 祐己 様
- 京都府消防協会長感謝状
  - 旭 元分団長 平井 透 様
- 京都府知事表彰
  - 精励章 旭 部長 加茂 大輔 様



おめでとうございます。旭町消防団の皆様には旭町の安心・安全にご努力よろしく申し上げます。

## 「地域の農業は地域で守る」 兵庫県三木市から視察研修



令和7年1月23日（金）兵庫県三木市から、農事組合法人旭に視察研修へ来られました。以前「農事組合法人旭」が近畿農林水産大臣表彰を受賞したことで、現在の活動を学びたいと依頼があったようです。特に関心が高まったのは「むらづくり合意形成過程」「むらづくり推進体制」です。「夢絵巻」の実現に向けた街づくりを進めていく中で「ふるさと街づくり連絡協議会」という組織をつくり、その中の「農業振興部会」から、「なごみの里あさひ」が生まれたという大きな流れを説明されました。その後「なごみの里あさひへ移り、数々の質問などをされていました。亀岡市旭町の「農事組合法人旭」「なごみの里あさひ」が、他府県からの注目を浴び、成長していくことが、亀岡市旭町の活性化につながるのだと思います。



### 主な行事予定

- 令和7年 2月 8日（土） 亀岡 オーガニック農業スクール開校式
- 9日・23日（日） 特別感謝デー なごみの里あさひ 午前9時から
- 23日（日） 旭 町民のつどい2025 午後1時30分 旭町自治会
- 3月 1日（日） まほろば・亀岡かわひがし ウォークラリー  
午前8時30分～ 河原林町自治会集合

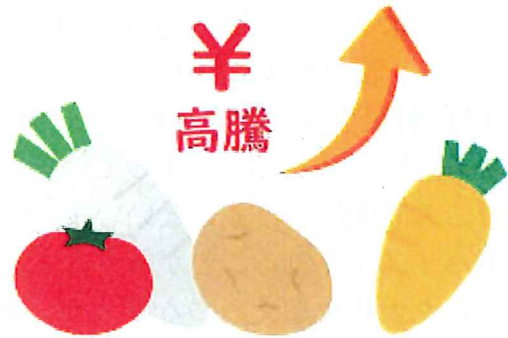
## 「野菜や米の高騰」——旭町の魅力を再確認

最近、テレビやニュースで「野菜や米の高騰」がよく話題になります。スーパーでは、丸ごとの野菜を買うよりも、手軽なカット野菜や、野菜と肉がセットになった「〇〇の素」のような商品が売れていると聞きます。

そんな中、農家や家庭菜園が多い旭町ではどうでしょう？

私などは料理を作る際、「あ、野菜が足りない」と思ったら畑に行きとってくる。逆に畑を見て、「今日はこれがあるから、この料理にしよう」と決めることもあります。

このような暮らしは、現在のような野菜の高騰の状況下では、実はとても貴重な価値あるものかもしれません。いつでも新鮮な野菜が手に入り、都会ではなかなか味わえない料理を気軽に楽しめる——そんな幸せな日常が、ここ旭町には普通にあります。



## 野菜作りの喜びとコミュニケーション

野菜を育てるのは決して楽なことではありません。畑を耕し、肥料を施し、時には害虫や天候と戦いながら世話をする必要があります。しかし、その分、「芽が出た」「実がなった」「こんなに大きく育った」といった喜びを感じることも多いものです。



自分で育てた野菜を家で料理する楽しさや、出荷して少しの収入に結び付ける達成感、何にも代えがたい喜びとなっているのではないのでしょうか。

さらに、野菜作りにはもう一つ大きな魅力があります。それは「人とのコミュニケーション」です。

「こうしたらよく育つよ」「この時期はこれをするといいいよ」といった情報交換を通じて、作業が自然と人と人をつなぐ場になります。畑にいと、通りがかりの人が「お疲れ様」「朝から頑張ってるね」と声をかけられることもあり、そこから話が弾み、地域の情報や集まりの話題に発展することもあります。

このような交流は、高齢者同士だけでなく、若い世代にも広がります。例えば、野菜作りを始めた若い人に対して、近所の年配者が「頑張っているな」「この時期はこうするといいいよ」とアドバイスをくれることがあります。こうした世代を超えたつながりが、地域全体を活気づける力になっているのではないのでしょうか。



## 旭町の未来をつくる「たわいのない日常」

新鮮な野菜を育てる喜びや、人と人とのつながりを感じられる生活は、旭町の大きな魅力です。確かに畑作業は体力も時間も必要ですが、それ以上に得られるものがたくさんあります。



若い世代が農作業に取り組むのは簡単ではないかもしれませんが、ある程度の年齢になれば、地域に溶け込み、コミュニケーションを楽しむことが重要になってきます。そんな中での何気ない日常の会話やつながりが、旭町をさらに元気にしていく原動力になるのではないのでしょうか。

「野菜の高騰」が話題になる今だからこそ、自宅での野菜作りを見直すきっかけになればと思いました。旭町の何気ない日常が、元気をもたらす活気を生み、地域をさらににぎやかにして

くれるそんな旭町と一緒に作っていきましょう。